

皆様、こんにちは、京葉人材育成会会長を務めさせていただいております中村です。本日はお忙しい中、ご参加いただき誠に有難うございます。正会員委員会の開催にあたりご挨拶をさせていただきます。

京葉人材育成会は、昨年4月より、千葉県産業振興センターから京葉コンビナート人材育成講座を引き継いで本格稼働しました。

昨年5月9日の発足式には、市原市小出市長においでいただきご挨拶いただき、経済産業省の吉村素材産業課長には基調講演をいただきました。

本日、2024年度の正会員委員会を開催でき、市原市高澤副市長よりご挨拶、経済産業省の素材産業課の土屋課長より基調講演をしていただけることを大変有難く思っております。先日、お会いした際にも、人材育成教育は重要で、東の京葉人材育成講座（京葉人材育成会）、西の山陽人材育成講座（山陽技術振興会）と評価していただきました。

さて、京葉人材育成会は、千葉県からコンビナート人材育成講座を引き継ぎ、皆様の温かいご支援のお蔭で、2023年度は、受講者目標500名に対し、807名（延べ人数では1,112名）と目標を達成できました。厚く御礼申し上げます。

2024年度にあたって、二つのことを申し上げるとともに、皆様へのお願いをしたいと思っております。

1. 京葉人材育成会の基盤固め
2. 時代の変化に対応した人材創り

一つ目は、「京葉人材育成会の基盤固め」です。

私は、京葉人材育成会の立ち上げにあたり、受講者目標を

第一ステップ：受講者500名、会費収入を含めての黒字化

第2ステップ：受講者800名 講座収入で黒字とする。

第3ステップ：受講者1000名、最終的には2000名を目指す。

皆様の温かいご支援で、2023年度で800名の目標を達成しましたが、収益基盤は、実は、かなりすれすれのところにあるのが実態でございます。

京葉人材育成会は、自前の事務所も研修設備や備品も持っておりません。市原市、出光興産をはじめ皆様方のご支援とご配慮で借用させていただき、初めて運営できております。

その意味で、2024年度は、まずは、基盤を固めたいと思います。

<これからの体制>

教育事業である以上、これからも当コンビナートの発展に必要な組織として、皆様からの信頼を得られるように、体制を固めたいと思っております。

- ① 来年度からは、幹事会社4社の工場長、事業所長の方に、順番で会長を務めていただき、ずっと継続していける体制にする。
- ② 実務は、専務理事が中心となって取り仕切っていく。
いずれ、専務理事も、幹事会社の環境・安全部長などを経験された方に務めていただきたいと思います。

<運営>

- ① 何とか、自前で収益を出せる形にしていく。
将来の自立を考えて、少しでも自前の研修設備・備品を整えていき
市原市様には、執務施設をお貸ししていただいておりますが。
これからも継続して、使わせていただけるようお願いしたい。
一層のご支援をお願いいたします。
- ② 京葉人材育成会としての社員も採用し、体制を作りつつあります。
- ③ 講座の講師には各社の実務経験者の方々にご支援をいただいております。
これまで各企業で培って来られたご知見を、これからはコンビナート全体の人材育成の役立てていただけるよう、ご支援をお願い致します。
各工場長の皆様には、ご支援よろしくをお願いいたします。
- ④ 講座の運営は、受講しやすさと、実際に同じようなポジションの方同士が語り合えることを考えて、リモート方式と対面方式とを併用していきます。

二つ目は、今、化学業界は大きな転換期に来ております。

- ① Commodity 製品から Specialty 製品への転換
- ② カーボンニュートラルへの対応
- ③ 急速な AI 技術の進展

これらの変化に対応していける人材育成教育が必要です。

日本の現場力は低下したといわれるが、日本企業が海外の競合メーカーとの戦いに生き残っていくには、現場力が必須です。

日本は、企業規模で劣るだけに、開発力だけでは勝負できず、「開発力+現場力」で戦うことが必須です。

現場力とは、「現場で活かせる知識、技能、感性」を持った人材がいることです。
新しい開発技術は、それを製造可能にする現場力があって、初めて実用化できます。
京葉人材育成会は、この期待に応える人材の育成に努めていきます。

そこで、お願いでございます。

京葉人材育成会の収入は、講座収入がほとんどです。

これからの教育事業継続のためには、一人でも多くの方に受講していただくこ

とが必要条件です。

受講者の受講動機を調べますと、三つのことがあります。

- ① 上司からの受講の勧め
- ② 受講していただいた人からの良かったという感想
- ③ ホームページ

中でも、大きいのが、上司からの受講の勧めです。

各社の人材育成施策として、京葉人材育成会の講座を活用していただき、各社の今後を担う人材育成に役立てていただきたい。

私達は、会員の皆様の声をお訊きして、よい講座づくりに努めますので、皆様には、私たちの講座を積極的に活用していただき、各社の人材育成に寄与したいと思っております。

講座の一覧である「パンフレット」を配布しておりますので、是非、皆様の会社のこれからを担う人材育成に役立てていただきたくことをお願いいたします。

「A Iの導入が進んでも、人間には人間にしかできない仕事があります」

人間でいえば、相手の気持ちが分る人材が必要です。設備で言えば、設備の気持ちがわかってあげる人材が必要です。

現場で力を発揮できる人間造りを目指していきますので、一層のご支援をお願いいたします。